



と しょ かん かい けつ 図書館で解決!? 第19号

図書館で調べ物をしてみませんか?

堺市立図書館
平成22(2010)年 2月9日

奥深い、日本の「暦」

堺市立図書館を
ご利用の
みなさまへ

いつも図書館をご利用
いただき、ありがとうございます。

堺市立図書館では、市
民のみなさんが図書館の
本を学習や課題解決に役
立てていただけるよう、身
近なテーマで「図書館で
解決!？」を発行していま
す。

今回は、お正月や節分
といった日本の季節の行
事や祝日・記念日と結び
ついた「暦」をとりあげて
みました。

普段あまり意識しない
「暦」ですが、その中には
昔の人々の経験や科学的
根拠に基づいた工夫が
たくさんつまっています。
その奥深い世界をのぞい
てみましょう。

毎年2月4日頃、ニュースなどで「寒い日が続きますが、暦の上では立春です。」という表現を耳にすることがあります。日本人は、変化に富む気候の移り変わりだけでなく、年中行事や暮らしの知恵を暦にもりこみ、生活のしるべとしてきました。私たちの生活に密着している「暦」。暦の成り立ちなどにも思いをはせ、昔ながらの季節感や伝統行事をより深く楽しみましょう。

「暦」ってなんだろう

『おもしろくてためになる暦の雑学事典』 吉岡 安之／著 日本実業出版社 1999

暦はなぜ“コヨミ”というの?などの素朴な疑問から、暦の歴史エピソード、季節と年中行事の関わりなどが紹介されています。暦全般について、この1冊で学びましょう。

『1年366日のひみつ』(学研まんが新ひみつシリーズ) 竹内 誠／監修 学研 2005

季節の行事(お正月、節分、ひな祭り、七夕、ハロウィーン、冬至、クリスマスなど)や祝日・記念日(春分の日、バレンタインデー、母の日など)の内容とその由来を、まんがを通じて楽しみながら知ることができます。親子でご利用ください。

太陰太陽暦(旧暦)・曜日・干支について調べよう

幕末日本史や歴史小説などで事件が紹介されるとき、年号や月日が太陽暦のそれとは異なることがあります。というのも、明治5年に日本はそれまで使っていた太陰太陽暦(月の満ち欠けと太陽の動きを合わせた暦)を太陽暦(太陽の動きにあわせた暦)に変え、現在に至っているからです。旧暦の日のことや、各日の曜日や干支などをお調べの際は、下記の資料をご利用ください。

『日本暦西暦月日対照表』 野島 寿三郎／編 日外アソシエーツ 1987

1582年(天正10年)から1872年(明治5年)までの太陰太陽暦(旧暦)と太陽暦(新暦)の年月日を対比した表が、各年の干支とともに載っています。

『21世紀暦 曜日・干支・九星・旧暦・六曜』

日外アソシエーツ編集部／編 日外アソシエーツ 2000

2001年から2100年までの曜日・干支・九星・旧暦・六曜が見やすく編集されています。これからカレンダーをつくる際の、参考になります。1901年から2000年までの『20世紀暦』では、各年の主な出来事、著名人の没月日等が年表で載っています。

時代をうつす暦

暦は、時代によって変化してきました。暦を作った人々の知恵や、時代背景にも目を向けてみましょう。

『大小暦を読み解く』 矢野 憲一／著 大修館書店 2000

江戸時代に使われていた太陰太陽暦では、1ヶ月が30日間の「大の月」、29日間の「小の月」の順序を年毎に変えていました。また、年によっては閏月(うるうづき)が入ることもありました。当時暦の出版は幕府の統制下にあったため勝手に作ることは許されていませんでしたが、商売など生活で暦を必要とする人々は、大小の順や閏月の位置を覚えるため、絵や和歌、俳句などに工夫と謎解きなどを施し“大小暦”をつくりました。(裏もご覧ください)

堺市立図書館一覧

中央図書館

〒590-0801 堺区大仙中町 18-1
TEL244-3811

堺市駅前分館

〒590-0014 堺区田出井町 1-1-300
TEL222-0140

中図書館

〒599-8273 中区深井清水町 1426
TEL270-8140

東百舌鳥分館

〒599-8234 中区土塔町 2363-23
TEL234-9600

東図書館

〒599-8123 東区北野田 1077
TEL235-1345

初芝分館

〒599-8116 東区野尻町 221-4
TEL286-0071

西図書館

〒593-8325 西区鳳南町 4 丁 444-1
TEL271-2032

南図書館

〒590-0115 南区茶山台 1 丁 7-1
TEL294-0123

梅分館

〒590-0141 南区桃山台 2 丁 1-2
TEL296-0025

美木多分館

〒590-0138 南区鴨谷台 2 丁 4-1
TEL296-2111

北図書館

〒591-8021 北区新金岡町 5 丁 1-4
TEL258-6850

美原図書館

〒587-0002 美原区黒山 167-14
TEL369-1166

人権ふれあいセンター 図書ホール

〒590-0822 堺区協和町 2 丁 61
TEL245-2534

青少年センター図書室

〒590-0930 堺区柳之町西 1 丁
3-19
TEL228-6331

編集・発行:

平成 22 年 2 月 9 日

堺市立中央図書館

〒590-0801

堺市堺区大仙中町 18-1

Tel:072-244-3811

Fax:072-244-3321

『明治改暦 ～「時」の文明開化～』岡田 芳朗／著 大修館書店 1994

明治の改暦で、明治 5 年 12 月 3 日は、(新暦の) 明治 6 年 1 月 1 日になりました。1 ヶ月前の突然の政府からの知らせに混乱した人々。その背景には、いったいどんなことがあったのでしょうか。

暦を知るうえで必要な情報はどこから？

暦を決めるものは、太陽や月の動きです。それらの情報を得るには、次の資料をご利用ください。季節と関連づけて知りたい場合は、天気について書かれた本も参考になります。

『月のきほん』白尾元理／著 誠文堂新光社 2006

暦は、月や太陽の動きを基準にして作られました。でも、私たちは月や太陽をどのくらい知っているのでしょうか。この本は中学生にもわかるように、月の軌道や月の暦“太陰暦”などについて、図を使って説明しています。

“太陽暦”を紹介した、『太陽のきほん』もあります。



『暦と天気のかかわりを探る』(調べよう天気と暮らし 5)

日本気象協会／編著 ポプラ社 2001

小学生向けの本ですが、黄道(太陽が地球の周りを 1 年でひとまわりする通り道のこと)の定点に季節ごとに名前をつけた二十四節気の解説が丁寧にされています。また写真も豊富に取り入れ、生活と暦のつながりがわかります。

『理科年表 第83冊(平成22年)』国立天文台／編 丸善 2009

1925年(大正14年)の発刊以来その年の暦情報を掲載し、カレンダーの基準となっています。毎年変動する秋分の日などの国民の祝日は、毎年2月の官報以外にこちらで確認できます。

Webで調べる

インターネットだからこそ得られる情報を、お楽しみください。

国立天文台 天文情報センター 暦計算室 <http://www.nao.ac.jp/koyomi/>

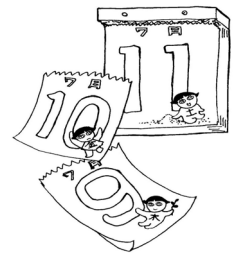
今日の日の出・日の入りから、国立天文台がその前身の江戸幕府天文方から引き継いだ貴重資料の画像まで、暦に関する情報が満載のサイトです。お正月には、初日の出情報も得ることができます。

国立国会図書館「日本の暦」 <http://www.ndl.go.jp/koyomi/index.html>

“貴重書画像データベース”では、河鍋暁斎、葛飾北斎、歌川国芳、菱川宗理などの暦に関する作品をお楽しみいただけます。また“暦の歴史”ページでは、“百濟から暦博士を招き「暦本」を入手しようとした“という記述を、『日本書紀』(慶長15年版)において確認することもできます。“大小暦の謎解き”の解答ページは、“大小暦”にカーソルをあてるとその謎が一瞬にして解ける仕組みとなっています。一度試してみましよう。

こよみのページ <http://koyomi8.com/>

かわうそ@暦さんが運営する個人のサイト。トップページには、本日の旧暦、干支、九星、日月の出入り情報がでています。数字を入れるだけで、太陰太陽暦(旧暦)と太陽暦(新暦)の変換計算ができます。



(今回掲載しているのは、すべて平成22年2月9日現在の所蔵状況です。)